



2024年3月期

# 決算説明資料

2024年5月24日

証券コード:3741

 **株式会社セック**  
SEC Systems Engineering Consultants Co.,LTD.

# 目次

- 事業分野
- 2024年3月期 決算概要
- 2025年3月期 重点テーマ
- 2025年3月期 今期業績見通し
- サステナビリティへの取組み

# 事業分野 (BF)

会社理念「社会の安全と発展のために」

社会の安全と発展にかけがえのない一流のソフトウェア会社となる

- 1970年の創業以来、コンピュータシステムの普遍的な設計技術である「リアルタイム技術」を中核として成長
- 「リアルタイム技術」が必要とされる分野で、「社会の安全と発展」に貢献する分野が、当社の事業分野
- 社会基盤システムと宇宙先端システムの2つの創業来の事業分野に、時代の変化とともに、新しい事業分野が加わっている





# 事業分野 | 社会基盤システム

## 世の中をもっと便利に、安全にするソフトウェアを開発

高度交通システム、防衛関連システム、医療関連システム、  
環境エネルギー関連システム、位置情報管理システム、官公庁向けシステムなどを開発。



高度交通システム  
ETC/VICS(渋滞情報)



位置情報サービス  
ロードサービス・緊急通報



緊急医療支援システム



医薬品・医療機器  
安全対策支援システム



防衛関連システム



ヘルスケア関連システム



官公庁向けシステム  
家畜個体把握・各種統計・防災関連

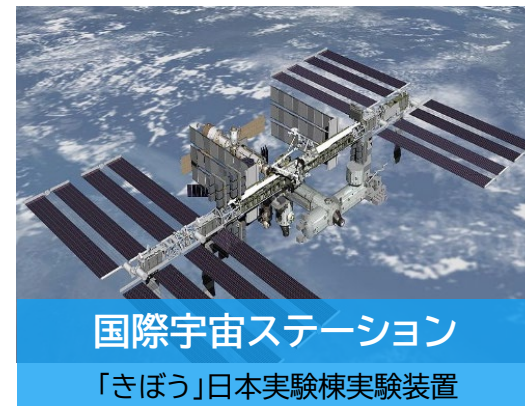
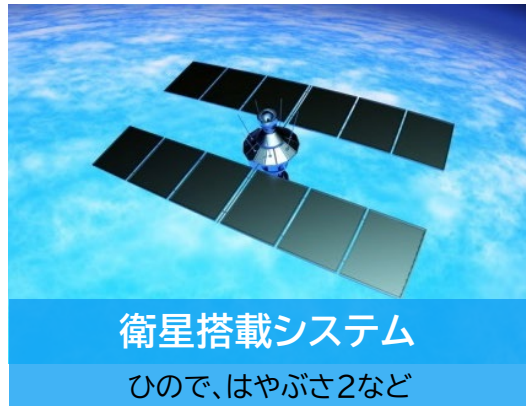


環境エネルギー  
マネジメントシステム

# 事業分野 | 宇宙先端システム

## 人類の夢を叶えるソフトウェアの開発に挑戦

科学衛星や惑星探査機の搭載システム、観測データ解析システムなどの開発や、次世代ロボットに関する研究開発、サービスロボットシステムの開発を行う。





# 事業分野 | モバイルネットワーク・インターネット

## 次世代のエッジデバイスと IoT のソフトウェア

キャッシュレス決済端末や車載端末などモバイルデバイスを使ったサービスシステム、IoT関連システム、スマートコンストラクション、XR(クロスリアリティ)など次世代技術を使ったエッジデバイスのソフトウェアを開発。



モバイルデバイス搭載機能



非接触IC搭載ソフトウェア



キャッシュレス  
モバイル決済端末



車載インフォテインメント  
ソフトウェア



スマートコンストラクション



IoT  
暑熱作業リスク管理システム



IoT  
海中資源管理



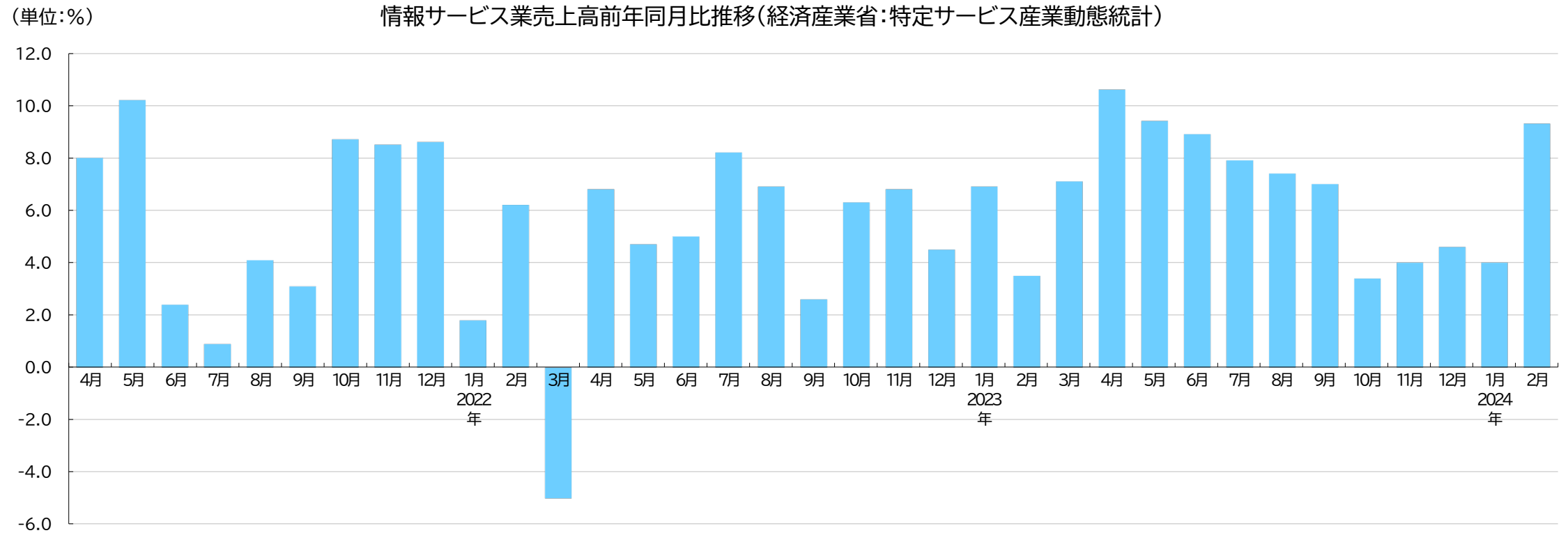
XR技術関連開発

2024年3月期

# 決算概要

# 事業環境

2023年4月以降の月別売上高は前年同月比で増加しており、IT需要は全体的には概ね堅調と推察される





# 2024年3月期総括

売上高、営業利益、経常利益の全てで過去最高、  
前期比で7期連続の増収増益

	当期（百万円）	前期比	利益率
売上高	8,534	+14.0%	
営業利益	1,467	+20.7%	17.2%
経常利益	1,547	+21.1%	18.1%
当期純利益	1,105	+25.8%	

受注高、受注残高ともに過去最高、  
受注高は前期比で9期連続の増加

	当期（百万円）	前期比
受注高	10,541	+30.9%
受注残高	5,769	+53.3%

## 先端技術を窮め、オープン・イノベーションで事業成長を目指す

サービスロボット関連やスマートコンストラクション関連の開発が大幅に増加したことに加え、官公庁向けの開発も引き続き好調であるなど、需要構造の変化に全BF最適化の視点で対応した。

売上高、営業利益、経常利益の全てで過去最高となり、増収増益となった。

受注高は前期を上回り過去最高となり、受注残高も過去最高となった。

# 損益計算書

	2023年3月期 (百万円)	2024年3月期 (百万円)	前期比 (%)	修正予想(11月) (百万円)	計画達成率 (%)
売上高	7,488	8,534	114.0	8,150	104.7
売上原価	5,246	5,983	114.0	5,720	104.6
売上総利益	2,241	2,550	113.8	2,430	105.0
販売管理費	1,026	1,083	105.6	1,030	105.2
営業利益 (営業利益率)	1,215 (16.2%)	1,467 (17.2%)	120.7	1,400 (17.2%)	104.8
経常利益 (経常利益率)	1,278 (17.1%)	1,547 (18.1%)	121.1	1,460 (17.9%)	106.0
当期純利益	878	1,105	125.8	1,010	109.4

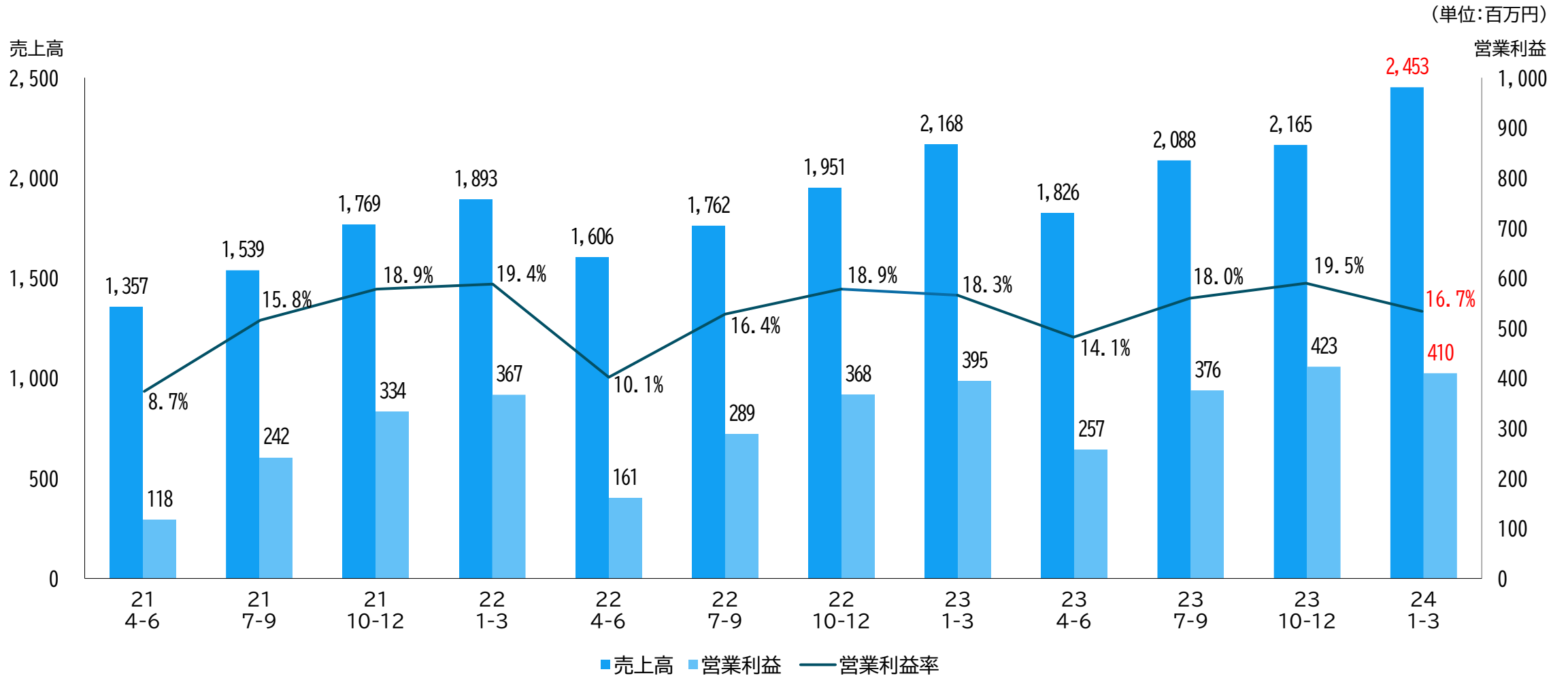
- 売上原価** 外注費が大幅に増加(外注費28.9億円、前期比23.1%増/売上高外注比率33.9%、前期31.4%)、社員数の増加・ベースアップなどにより人件費が増加
- 販売管理費** 社員数の増加などにより労務費が増加、研究開発費は100百万円で、前期比で51.2%増
- 営業外損益** 研究開発の補助金収入が大幅に増加(33百万円、前期比262.7%増)、受取出向料は減少(32百万円、前期比25.2%減)
- 当期純利益** 賃上げ促進税制の適用による税額控除で法人税等負担率が低下(法定実効税率30.62%に対し、法人税等負担率28.59%)





# 四半期業績推移(PL)

## 2021年度第3四半期から、10四半期連続の増収増益

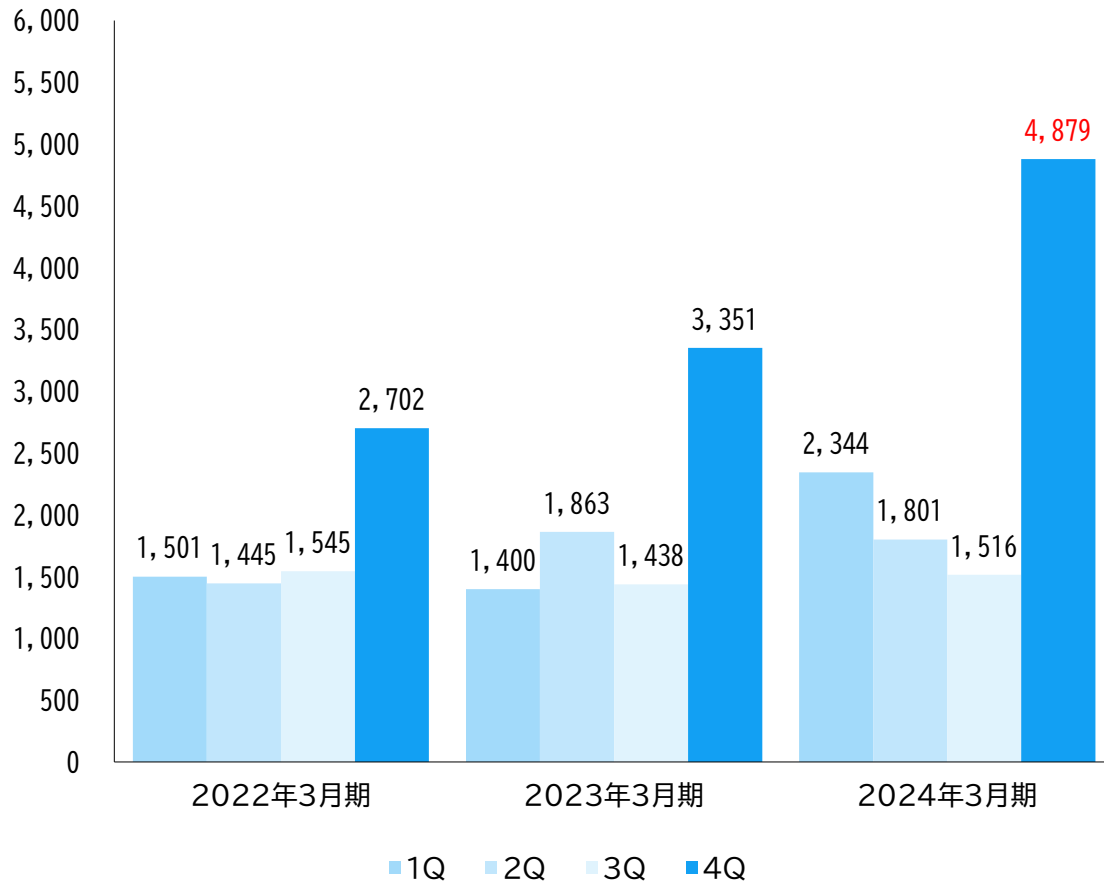


# 四半期業績推移(受注状況)

受注高は第1、第4四半期で過去最高、受注残高は全ての四半期で過去最高

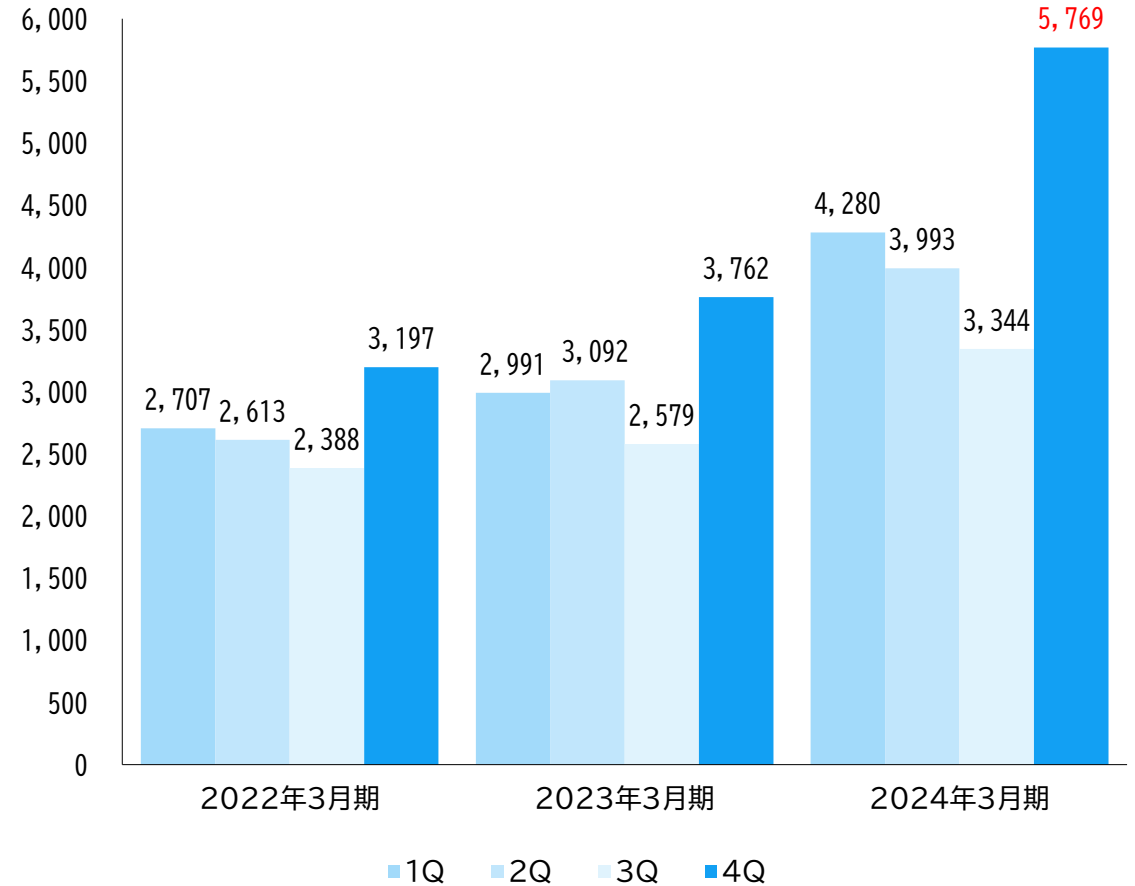
(単位:百万円)

受注高



(単位:百万円)

受注残高



# BF別の状況

## 全てのBFで売上が増加

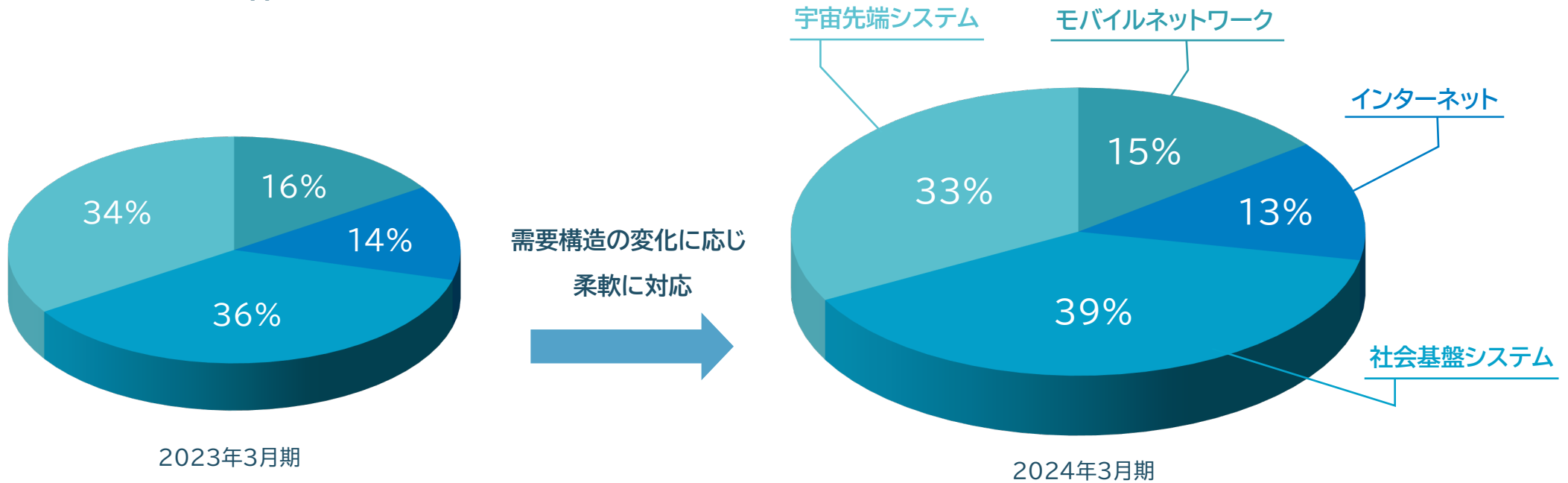
ビジネスフィールド	2023年3月期		2024年3月期		前期比 (%)
	売上高 (百万円)	構成比 (%)	売上高 (百万円)	構成比 (%)	
モバイルネットワーク	1,173	15.7	1,248	14.6	106.4
インターネット	1,017	13.6	1,155	13.5	113.5
社会基盤システム	2,737	36.5	3,325	39.0	121.5
宇宙先端システム	2,560	34.2	2,804	32.9	109.6
合計	7,488	100.0	8,534	100.0	114.0

- モバイルネットワークBFは、スマートコンストラクション関連の開発が増加
- インターネットBFは、民間企業向けの開発が増加
- 社会基盤システムBFは、環境分野や医療・福祉分野をはじめとした官公庁向けの開発が引き続き好調
- 宇宙先端システムBFは、宇宙関連の開発が堅調であることに加え、サービスロボット関連の開発が増加



# BF別売上構成比

## 社会基盤システムBFが増加



### モバイルネットワークBF

スマートコンストラクション関連の開発が大幅に増加し、BFの売上高は増加したが、全体構成比では減少

### インターネットBF

民間企業向けの開発が増加し、BFの売上高は増加したが、全体構成比では減少

### 社会基盤システムBF

環境分野や医療・福祉分野をはじめとした官公庁向けの開発が引き続き好調

### 宇宙先端システムBF

宇宙関連の開発が堅調であることに加え、サービスロボット関連の開発が大幅に増加し、BFの売上高は増加したが、全体構成比では減少

# BF別受注状況

## 社会基盤システムBF、インターネットBF、宇宙先端システムBFの受注が大幅に増加

ビジネスフィールド	2023年3月期		2024年3月期			
	受注高 (百万円)	受注残高 (百万円)	受注高 (百万円)	前期比 (%)	受注残高 (百万円)	前期比 (%)
モバイルネットワーク	1,213	285	1,197	98.7	234	82.1
インターネット	970	243	1,235	127.4	323	132.9
社会基盤システム	3,351	2,618	5,030	150.1	4,323	165.1
宇宙先端システム	2,519	615	3,077	122.2	888	144.3
合計	8,053	3,762	10,541	130.9	5,769	153.3

(受注残高のうち、今期の売上高に貢献するのは4,443百万円、前期(3,191百万円)と比較し39.2%の増加)

- モバイルネットワークBFは、スマートコンストラクション関連の受注が増加したが、XR(クロスリアリティ)サービス関連の受注が減少
- インターネットBFは、民間企業向けの大型の開発やDX関連の受注が増加
- 社会基盤システムBFは、環境分野や医療・福祉分野をはじめとした官公庁向けの受注が増加
- 宇宙先端システムBFは、サービスロボットや宇宙関連の受注が増加

## 期末貸借対照表

	2023年3月末日(百万円)	2024年3月末日(百万円)	増減(百万円)
流動資産	7,043	7,785	742
固定資産	2,141	2,323	181
流動負債	1,391	1,540	148
固定負債	190	170	▲20
純資産	7,602	8,398	795
総資産	9,185	10,108	923
自己資本比率	82.8%	83.1%	0.3%
流動比率	506.1%	505.5%	▲0.5%
固定比率	28.2%	27.7%	▲0.5%

**流動資産** 売上債権の増加、現金及び預金の減少などによる増加

**固定資産** 投資有価証券の取得などによる増加

**流動負債** 買掛金、未払消費税等、賞与引当金の増加などによる増加



# キャッシュ・フロー計算書

	2023年3月期 (百万円)	2024年3月期 (百万円)	増減 (百万円)
営業活動によるキャッシュ・フロー	526	384	▲142
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲303	▲139	164
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲381	▲352	28
現金及び同等物の増減額	▲158	▲108	50
現金及び同等物期末残高	3,076	2,968	▲108

**営業キャッシュ・フロー** 官公庁に対する売上債権の増加、法人税等支払額が増加したことなどによる収入減

**投資キャッシュ・フロー** 投資有価証券の取得額、有形固定資産の取得額の減少などによる支出減

**財務キャッシュ・フロー** 前期は30,000株の自己株式取得があったことにより、前期比では支出減

2025年3月期

# 重点テーマ

# 先端技術を窮め、 オープン・イノベーションで事業成長を目指す

### 「研究開発」

1. 1社完結の研究開発以外に、大学や国、企業の研究機関、ハードウェアベンダとの最先端技術でのアライアンスを積極的に推進する。
2. 特に、AIやチップ開発、無重力環境で動作するロボットなど、新しい技術の研究に注力する。

### 「高付加価値化」

1. 情報科学、統計などのアプローチから有益な知見やビジネス上の便益を見出すことで、さまざまなビジネス変革の可能性を提案する。
2. 研究開発・製品開発活動により得たニューエレメント(革新的技術、標準化技術、ソリューション製品、特許など知的財産権、新ビジネスモデルなど)を核として、主体的なビジネスを推進する。

### 「人的資本投資」

1. AI、デザイン思考、データサイエンス、セキュリティ、クラウドを中心に技術教育を強化する。
2. ロボットやFPGAなどハードウェアにも強い人材育成を強化する。

# 研究開発: エッジコンピューティング

## エッジAIチップの開発

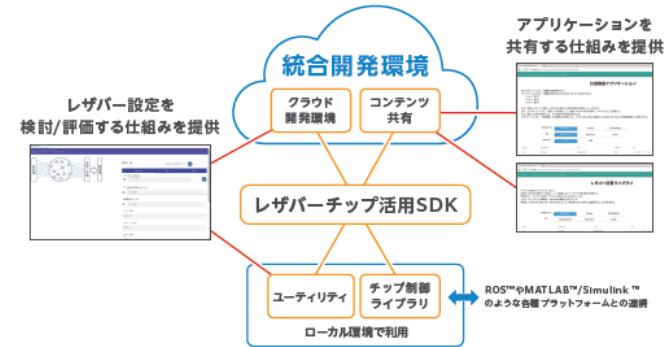
NEDO公募事業「高効率・高速処理を可能とするAIチップ・次世代コンピューティングの技術開発」

2022年4月にスタートした本プロジェクトでは、人の脳の仕組みを数式化した機械学習アルゴリズムのひとつであるレザバー計算モデルを実行する集積回路チップ(エッジAIチップ)を開発し、AIを搭載したエッジデバイスとしてロボットやIoT分野への応用と実用化を目指す。

## レザバーチップ活用SDKを開発

レザバーチップを利用したアプリケーションを開発するための様々なツールを開発。

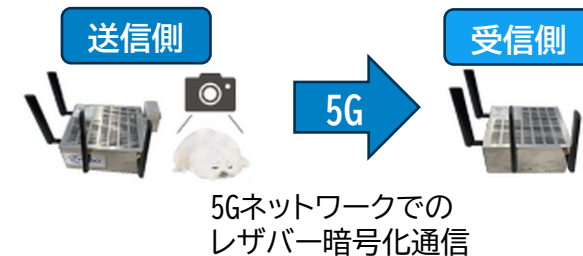
- クラウド開発環境
- コンテンツ共有機能
- ユーティリティ
- チップ制御ライブラリ



## 事例: FA機器の稼働状況検知

製造工場で動作する様々なFA機器の動作状況を、その振動パターンを元に検出することが可能。

製造工場のFA機器は種類が多いうえに、入れ替わりが頻繁なため、大量のデータを必要とする従来の機械学習によるAIをFA機器の管理に適用することは困難だが、レザバーコンピューティングを適用することで、少ないデータで工場のFA機器の稼働状況を識別することが可能となる。



(2024年2月27日 当社ニュースリリース : <https://www.sec.co.jp/ja/news/news-5337086151183428041.html>)

# 研究開発:「人」と「サイバー・フィジカル空間」の融合

## 住宅・ビル等の人協調ロボティクスの社会実装技術開発

NEDO公募事業「戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)第3期／人協調型ロボティクスの拡大に向けた基盤技術・ルールの整備」

本プロジェクトでは、「人」と「サイバー・フィジカル空間」が融合した、HCPS(Human-Cyber-Physical Space)という新領域の技術開発・社会実装を推進することで、人とテクノロジーが共生・協調して相互に支えあう社会を実現することを目指す。

デジタルツインや生成AIを活用し、人々が日常多くの時間を過ごしている集合住宅やオフィスビル、商業施設、病院等を対象とした、配送や案内、警備、清掃などのロボットサービスの実装・評価を行う。これらの実用化・事業化を通して、労働人口減少対策、高齢者・障がい者の生活の質向上、子育て世代の可処分時間の延伸などに貢献していく。

研究テーマ 住宅・ビル等の人協調ロボティクスの社会実装技術開発

体制

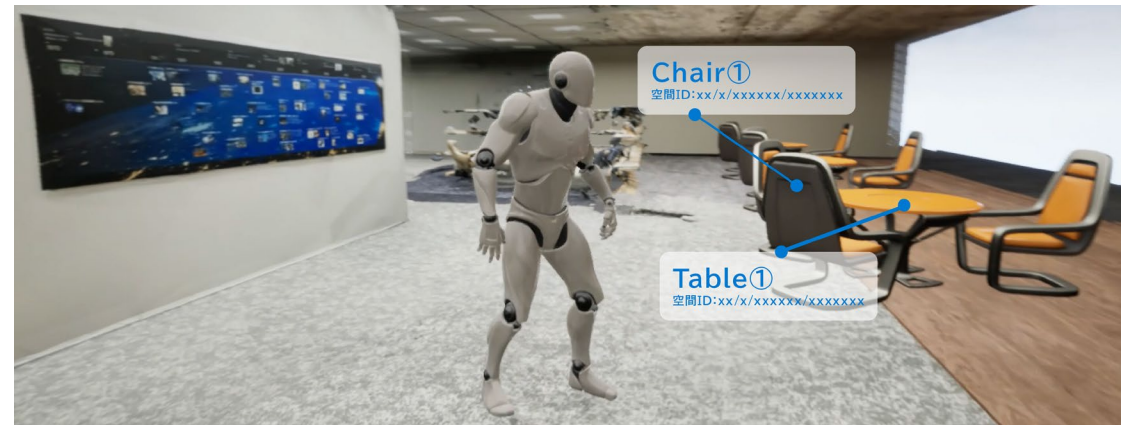
研究代表者:株式会社セック

共同提案者:川崎重工業株式会社

国立研究開発法人産業技術総合研究所

名城大学

株式会社キビテク



ロボットの動作環境を仮想空間(デジタルツイン)として構築し、仮想空間の環境情報を現実動作するロボットへ、ロボットが得た現実空間の情報を仮想空間へ相互に反映し、シームレスな動作環境を実現する。

(2023年11月2日 当社ニュースリリース : [https://www.sec.co.jp/ja/ir/news/auto\\_20231101577629/pdfFile.pdf](https://www.sec.co.jp/ja/ir/news/auto_20231101577629/pdfFile.pdf))



# 研究開発：量子ソフトウェア

量子コンピュータは従来のコンピュータを凌駕する計算能力を期待されているが、その実用化には量子コンピュータを利用するための量子ソフトウェアが必要となる。当社は、大阪大学を中心とした共同研究チームの一員として量子ソフトウェアの研究開発を進めており、量子コンピュータを利用するためのクラウドソフトウェアの開発、画像処理への量子コンピューティングの応用などに取り組んでいる。



## 研究テーマ／目標

画像処理、点群処理等への応用研究

クラウド環境の研究開発

ロボット等への適用の(一部)  
実用研究

ロボット応用

デジタルツイン等での  
大規模シミュレーション

宇宙機での量子コンピュータ利用

(2023年12月21日 当社ニュースリリース : <https://www.sec.co.jp/ja/news/news6105400018819603173.html>)

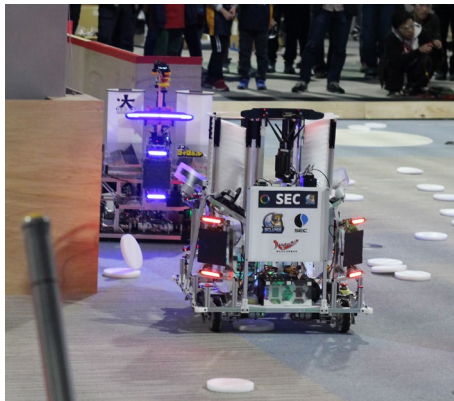
# 人的資本投資

## 人間力が持続的成長の源泉

当社は会社理念において「社員の自己実現と会社の存続発展の一致をはかる」ことを目標の一つとして掲げている。ソフトウェアビジネスは人への依存度が極めて高く、社員の質が会社の質を決め、社員の成長が会社の成長につながる。ソフトウェアエンジニアの素養とプロとしての志を持つ優秀な人材を採用し、プロに相応しい挑戦の機会と自ら学び成長する機会を提供することが当社の人材育成の基本方針である。

## ロボット開発技術探求プロジェクト

### ロボット競技を核としたエンジニア選手権「CoRE 1部リーグ」に参戦



安心安全で信頼性が高く、より付加価値の高いロボットソフトウェアの開発には、ソフトウェアとあわせてハードウェアに関する知見やノウハウも必要である。本プロジェクトでは、若手を中心としたメンバーが自らハードウェアの制作に挑戦している。

2024年3月には、ロボット競技を核としたエンジニア選手権「CoRE 1部リーグ」に参戦した。

(2024年2月6日 当社ニュースリリース : <https://www.sec.co.jp/ja/sec/rd/robot/setagaya-eclipse.html>)

2025年3月期

# 今期業績見通し

# 2025年3月期業績見通し

## 継続的な成長を目指し、売上高、利益ともに増加の計画

	2024年3月期実績(百万円)	2025年3月期業績予想(百万円)	前期比(%)
売上高	8,534	9,200	107.8
売上原価	5,983	6,390	106.8
売上総利益	2,550	2,810	110.2
販売管理費	1,083	1,240	114.4
営業利益 (営業利益率)	1,467 (17.2%)	1,570 (17.1%)	107.0
経常利益 (経常利益率)	1,547 (18.1%)	1,650 (17.9%)	106.6
当期純利益	1,105	1,145	103.6

**売上高** 前期と同様の需要環境を見込み、官公庁主体の社会基盤分野のビジネスを中心に推進し、前期比約8%増を見込む

**売上原価** 社員数増加や待遇向上による人件費の増加、外注費の増加などにより、増加を見込む

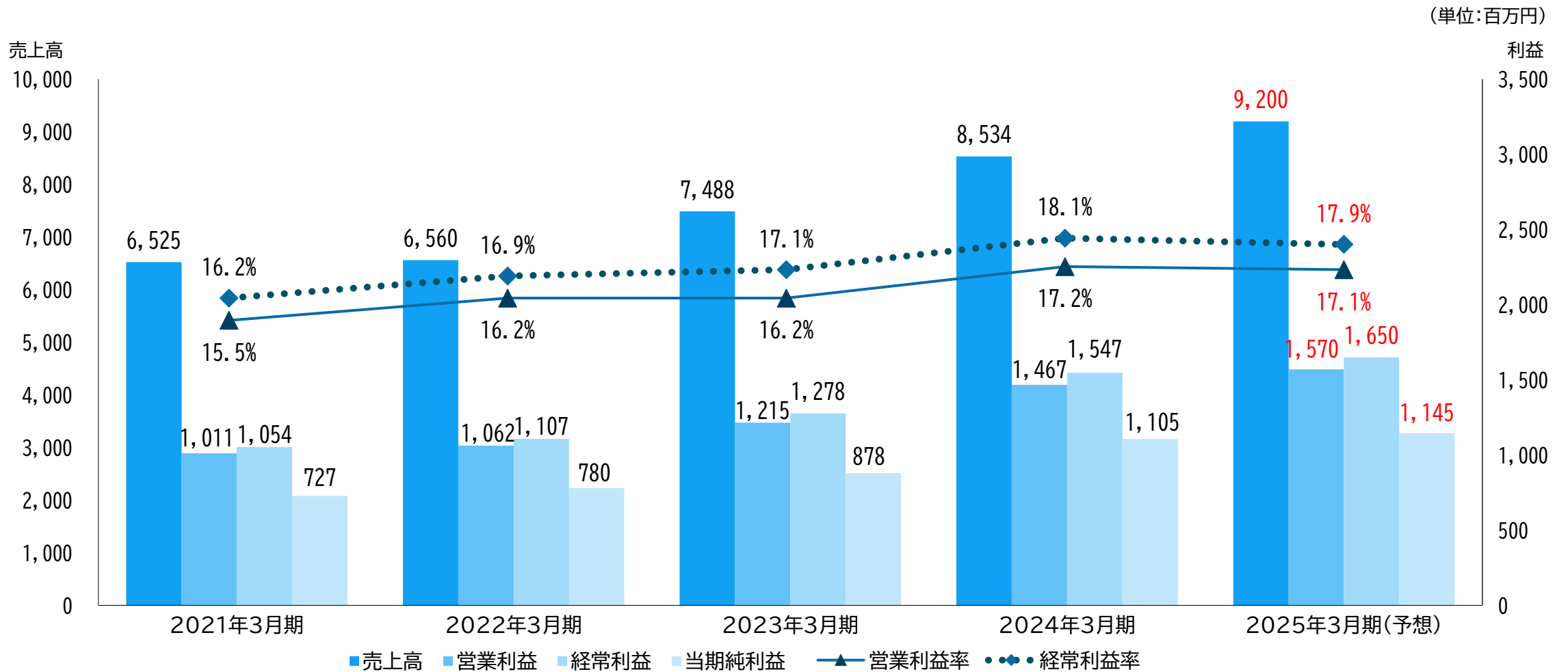
**販売管理費** 研究開発の増加などにより、増加を見込む

**営業外損益** 前期並みを見込む

**当期純利益** 前期は賃上げ促進税制の適用により増加したが、今期は税金費用を法定実効税率どおりで計算

# 通期業績の推移





## 8期連続の増収増益を目指す





# 2025年3月期BF別業績見通し

## 社会基盤システムBF、宇宙先端システムBFが増加する見込み

ビジネスフィールド	期初の想定	予想
モバイルネットワーク	スマートコンストラクション関連の開発が引き続き堅調であるものの、XR(クロスリアリティ)サービス関連の開発が減少し、微減	
インターネット	民間企業向けのDX案件が継続するものの、他のBFとの人員配分の最適化により、前期並み	
社会基盤システム	環境分野や医療・福祉分野をはじめとした官公庁向けの開発が引き続き好調で、増加	
宇宙先端システム	サービスロボット関連の研究開発案件や宇宙関連の開発が堅調に推移し、増加	

# サステナビリティ への取り組み

# 持続可能な社会の実現のために



私たちは持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています

当社は、ソフトウェア開発の事業活動を通して社会課題の解決に取り組むことで、社会の持続的発展に貢献することをサステナビリティ推進の考え方としている。

社会課題を起点とした事業機会創出にも取り組むことで、より一層 SDGs の達成に貢献していく。



## E

### 環境



JQA-EM1216

2000年12月に環境マネジメントシステム(ISO 14001)の認証を取得。以来、「地球資源が有限であることを認識し、環境の保全に永続的に配慮する」ことを会社方針とし、企業活動と地球環境の調和を目指して、全社員が環境問題に積極的に取り組んでいる。

## S

### 社会

#### 研究開発

私たちの生活を安全、安心、快適にし、環境負荷をも軽減する「ユビキタス」をテーマに取り組んでいる。

#### 人材育成

プロに相応しい挑戦の機会と魅力ある待遇を提供。

#### ソフトウェア教育・リスキリング支援

学校や企業、自治体に教育プログラムを提供。

#### 健康経営

健康経営優良法人の認定取得。



## G

### ガバナンス

#### コーポレートガバナンス

審議に十分な時間をかけた取締役会を開催することと、監査等委員会監査と内部監査による経営チェック機能の充実を重視している。透明・公正かつ迅速・果敢な意思決定を行う仕組みを構築・維持・改善し、持続的な成長と企業価値の向上に取り組んでいる。

#### コンプライアンス

「法および社会規範を遵守」することを会社理念の行動規準に定め、社員と共有している。

# スペースサステナビリティ（持続可能な宇宙開発）

当社は、科学衛星や惑星探査機の搭載システム、観測データ解析システムなどを開発し、創業当初から宇宙分野の発展に貢献している。社会が安全でかつ発展していくことができるよう、宇宙環境、ひいては地球環境の保護と持続可能な開発の実現に貢献していく。

## ADRAS-Jパートナーシップ

宇宙空間には、運用を終えた人工衛星や、故障した人工衛星、打ち上げられたロケットの残骸など、地上から制御することのできない人工物が無数に存在している。これらスペースデブリ（宇宙ごみ）は、運用中の宇宙機の故障の要因になったり、今後打ち上げられる宇宙機の活動を妨げることになり、今後の宇宙開発の脅威となる可能性がある。

当社がアストロスケール社とパートナーシップ契約を締結している、スペースデブリ除去技術の実証衛星「ADRAS-J（アドラスジェイ、Active Debris Removal by Astroscale-Japanの略）は、2024年2月の打ち上げ成功後、4月にはデブリ後方数百mの距離まで接近し、近距離でのデブリの撮影に成功しており、順調にミッションが進んでいる。（2024年4月時点）

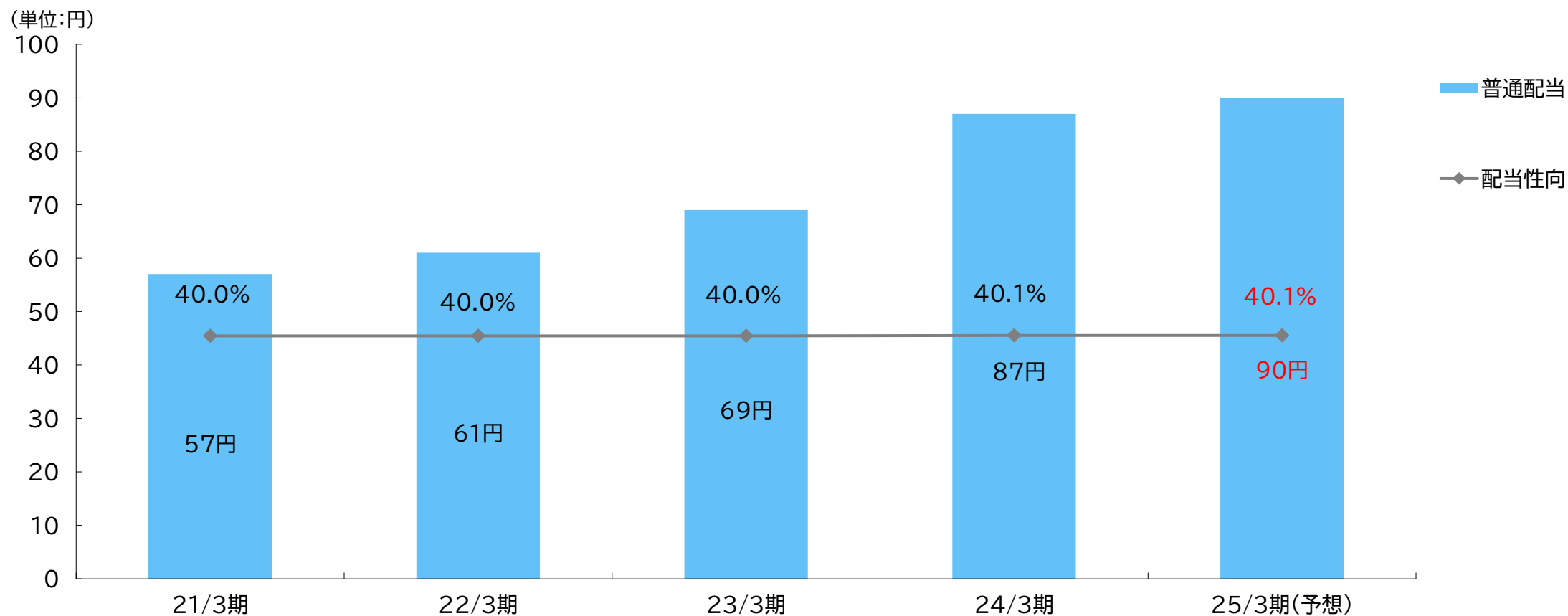


©アストロスケール

# 配当の方針

## 配当性向40%を目安とし、前期比で每期増配の方針

2025年3月期は、1株当たり90円の配当予想とする。





## ご参考: ニュースリリース一覧(2023年12月~2024年5月)

2023年		2月20日	日本証券新聞社主催のIRセミナー(名古屋)にて会社説明会を開催
12月 5日	ラジオNIKKEI「ザ・マネー」に代表取締役社長 櫻井が出演	2月27日	<u>International Symposium on Neuromorphic AI Hardware</u> にてレザバーコンピューティングに関する研究発表
12月13日	<u>情報サービス産業協会ソフトウェアイノベーションシンポジウムにて「高速機械学習器による現場での故障予知」について発表</u>	3月 5日	<u>ACRiウェビナー(2024年3月8日開催)にて FPGAでのレザバーコンピューティングの活用について技術解説</u>
12月16日	ラジオNIKKEI & プロネクサス共催「企業IR & 個人投資家応援イベント」(東京)にて企業IRセミナーを開催	3月11日	<u>国際宇宙ステーション(ISS)内積載物の運搬・操作ロボットシステム「PORTRS」のISS実証用システムの開発の契約先に選定</u>
12月21日	<u>【共同研究】大阪大学に設置した超電導量子コンピュータ国産3号機のクラウドサービスを開始</u>	3月11日	健康経営優良法人2024(大規模法人部門)に認定
2024年		3月21日	第5回「きぼう」ロボットプログラミングチャレンジ(Kibo-RPC)に協賛
1月18日	ロボデックス(ロボット開発・活用展)に出展	4月 9日	令和6年度 科学技術分野の文部科学大臣表彰「科学技術賞(理解増進部門)」を受賞
1月25日	<u>当社がソフトウェアの開発に協力した変形型月面ロボットLEV-2(愛称: SORA-Q)が、小型月着陸実証機「SLIM」の画像撮影に成功</u>	4月30日	<u>日経CNBC「トップに聞く」に代表取締役社長 櫻井が出演</u>
2月 5日	JAXA運用中の宇宙機を対象とした故障予兆検知の実証評価に協力	5月13日	<u>第41回 ロボット工学とオートメーションに関する国際会議(ICRA 2024)出展</u>
2月 6日	<u>一般社団法人次世代ロボットエンジニア支援機構主催のエンジニア選手権、CoRE(The Championship of Robotics Engineers)に参加(2024年3月23日~24日開催)</u>	5月16日	<u>イベント「宇宙への挑戦」開催(2024年6月6日 大阪)</u>
2月19日	<u>当社が支援しているアストロスケールの商業デブリ除去実証衛星「ADRAS-J」の打ち上げが成功</u>		

- この資料の目的は、当社へのご理解を深めていただくためのIR情報をご提供することであり、投資の勧誘を目的としたものではありません。投資につきましては、ご自身でご判断願います。
- この資料には、当社の現在の計画、戦略、将来の業績に関する見通しなどが記載されております。こうした記述は、当社の将来の業績を保証するものではなく、経営環境をはじめ、さまざまな外部的要因の影響等により変化しうることをご承知おきください。
- この資料の作成に際しましては、細心の注意を払っておりますが、内容につきましていかなる保証を行うものではなく、この資料を使用したことによって生じたあらゆる損害などについて、当社は一切責任を負うものではありません。



2024年3月期

# 決算説明会

ご視聴ありがとうございました

証券コード:3741

 **株式会社セック**  
SEC Systems Engineering Consultants Co.,LTD.